

[ 先生 の視点から ]

教えやすく，  
児童とともに自身も学べる

1

**授業しやすい見開き 1 Part (2 単位時間) 構成**

1 Unit を 3 Part 構成とし，1 Part (見開き 2 ページ) に 2 単位時間を配当しました。  
また，1 単位時間の内容は，余裕を持って指導できる分量としています。

2

**明示化された学習内容とめあて**

Unit の目標や Part ごとの「めあて」を明記し，学ぶべき語句や表現も紙面に明示しています。  
到達目標や学習内容が紙面からわかるので，授業の準備がしやすいです。

3

**We Can! から連なる題材**

文部科学省発行の教材「新学習指導要領対応 小学校外国語教材 We Can!」の題材・配列をほぼ踏襲し，語彙や表現もほぼ網羅しています。2 年間 We Can! を使って授業した先生の負担にならず，2 年間の蓄積を活かせるようにしました。

4

**評価のサポート**

Part や Unit の学習後に振り返りができるコーナーを設けています。身につけた「知識及び技能」や「主体的に学習に取り組む態度」をはかる内容となっているので，評価をする際の参考にもなります。

指導計画が立てやすく，事前準備がしっかりでき，  
ゆとりを持って授業できます。

学習指導要領に基づき，今後ますます多様化する社会を生き抜く「**資質・能力**」を  
「**主体的・対話的で深い学び**」を通して養えるよう，  
先生・児童・保護者のそれぞれの視点を考慮し作成しました。

[ 児童 の視点から ]

主体的，対話的に  
学べる

1

**主体的に学べる内容**

児童が思考力を働かせ，新しい語句や表現の意味，使い方，日本との文化の違いなどに自ら気づき，理解できるように工夫しています。

2

**対話的に学べる内容**

先生と児童，または児童同士で対話しながら英語への理解を深める活動ができるようにしています。実際に英語を使って話すことを通して，相手のことを理解したり，自分の言いたいことを伝えたりする力を養います。

思考力やコミュニケーション力も  
養います。

[ 保護者 の視点から ]

子どもの成長を感じながら，  
学習に寄り添い，  
いっしょに学べる

1

**明示化された学習内容**

学ぶべき語句や表現を紙面に提示し，子どもが学校で何を学んでいるかがわかるようにしました。

2

**子どもの理解度がわかる  
書き込み欄**

紙面には書き込み欄を多く設け，子どもが学習したことや理解度など，学習の軌跡が見えるようにしました。

3

**QRコードを利用した音声教材**

Listen and Play の語句や Word List の音声を聞いたり，アルファベットの読み書きを学んだりできる動画を家庭でも見ることができます。

子どもと学校で学んだことを共有し，  
コミュニケーションが図れます。

## 2 教科書の構成



Pre Unit

前学年の活動や学習からの橋渡しとなる Unit です。

Unit

メインとなる学習事項が入った Unit です。  
新しい語句や表現を身につけます。



REVIEW

学期末のまとめページです。  
「知識及び技能」を問う問題に挑戦したり、「思考力・判断力・表現力等」を働かせる活動を行ったりします。



Story

物語を掲載しています。  
絵を見ながら単語や文の意味を推測し、  
物語を楽しみます。

Word List

表現活動などで、自分の言いたいことを英語で  
どのように言うのかを調べるのに使用します。

アルファベット表

アルファベットを書くときの見本です。

絵カード

各Unitで学習する単語の  
カードです。

## 1 教科書全体の構成

Pre Unit を含む 9 つの Unit と  
各学期末のまとめの REVIEW,  
Story などの付録で  
構成されています。

## 2

### Unit の構成

活動や演習はほぼ  
紙面の流れにそって  
行えるので、**とても  
授業しやすい**です。

扉



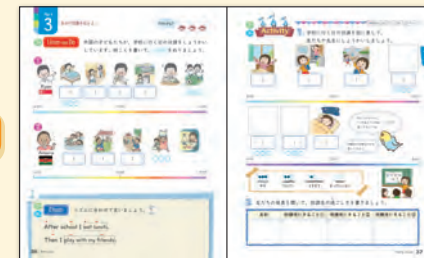
Part 1



Part 2



Part 3



Looking Back



Let's Read and Write



導入

### 学習の動機づけ

- Small Talk で、既習表現を使った即興的なやりとりや、新しい語句・表現の緩やかな導入を行います。
- Unit 全体のめあてを提示します。

インプット・インテイク

### 新しい語句・表現に触れ、身につける

- 語句・表現の導入や演習をします。
- 「聞く」「話す」を中心とした豊富な活動を通して、定着を図ります。

アウトプット

### Unit のまとめ

- 身につけた語句・表現を使って、発表活動を行います。

振り返り

### 振り返りと自己評価

- 自分ができるようになったことを確認します。
- 学習への意欲を記します。

### 文字を「読む」「書く」

- 英語の文字と音との関係を示します。
- アルファベットを書きます。



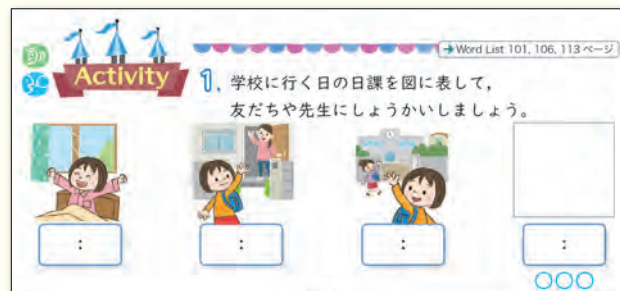
# 3 資質・能力の育成

主体的・対話的に学ぶ

## 思考力・判断力・表現力等の育成

- **知識**として身につけた英語を、言語活動の中で**使用する力**を養います。

Unit 内の Activity では発表活動や、ペアまたはグループでの会話をします。学んだ英語を実際に使ってみることで、表現する力の基礎を養います。



- **積極的に英語で他者と会話し、表現力**を養います。

Activity や扉のページを利用した Small Talk の中で、相手の良い点に気づいてまねをしたり、自分の話が相手にうまく伝わっているかを考えたりしながら伝え方を模索します。



- **理解したことを**どのように使えば、自分の言いたいことを相手に伝えられるかを**思考し、判断し、表現**します。

REVIEW では、提示された場面で、どのようなことを、どのような英語を使って伝えればよいのかを考えます。



## 知識及び技能の育成

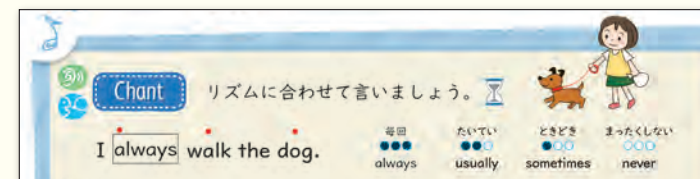
- **思考力を働かせ**、自ら気づき、**理解**できるようにしています。また、他者と対話し、互いの気づきを共有することで、**より深い知識を身につけます**。



It's 8:00 now. I do my homework.

語句や表現を導入する際に、イラストなどをヒントとして音声を聞くことで、日本語を介さず、児童が自ら、その意味や使い方に気づけるよう促します。

- Jingle や Chant, その他活動や演習を通して定着を促します。



理解した表現を、聞く活動や話す活動の中で、繰り返し聞いたり口にしたりし、定着させます。

相互に作用 し合い、  
**3つの資質・能力を**  
育て ます

## 学びに向かう力・人間性等の涵養

- 異なる言語や異文化について**知る**ことで、**興味や関心を持って**言語や異文化に関する情報を自ら調べ、新たな知識を身につけようとします。
- 異なる言語や異文化についての**知識を持つ**ことで、会話の際に**相手の持つ文化について考え、配慮できる心**を育みます。



日本では、正解には○、不正解には×か✓を付けることが多いです。アメリカでは✓が正解を表します。



アメリカの昼食：お弁当を持ってきたり、カフェテリアで食べたりします。  
フランスの昼食：長い昼休みの間に家に帰って食べたり、カフェテリアで食べたりします。

各 Unit で異文化に関する内容を取り上げ、同様の情報についてもっと知りたいという意欲をわかせます。

日本と異なる外国の文化に触れ、固定概念にとらわれない柔軟な考え方や人への接し方を身につけます。